

“高度な知の創成と的確な知の継承”を基本理念に、11学部1コース、7つの研究科を擁する日本屈指の総合大学である岡山大学。

同校におけるMOS試験は、新入生を対象とした『PC総合サポート講座』の延長線上に位置づけられた2007年の『MOS対策講座』から、2012年度より可能となった学内受験というカタチを以て学生のスキルの客観的な証明として活用されています。情報統括センターのセンター長 稗田 隆教授に、MOS試験の活用に至った経緯や現状の運営状況などの取り組みについてうかがいました。

学生の利便性と費用軽減を具現化するために学内受験の体制づくりを推進

自然豊かで広大なキャンパスに11学部1コース、7つの研究科を擁する日本有数の総合大学の岡山大学。“高度な知の創成と的確な知の継承”を理念に、「探究・創造する知性の育成」「豊かな教養と高度専門性の追求」「社会的責任を負う個の確立」「異文化理解に基づいた国際性の獲得」を教育目標とし、約13,500人の学部生・大学院生に加え、世界各地からの留学生474人を併せた14,000人余りの学生が、学問の分野や国ごとの文化の違いを超えて、知の創造を育むべく学んでいます(2012年5月時点)。

同校でMOS試験は2007年より活用されており、2012年度からは、学内(情報統括センター)で受験できる体制が整えられたため、試験実施日には100人以上の学生がMOS試験を受けることが可能となりました。

情報統括センターは、入学状況や就職状況などの学生に関する情報をはじめ、教員の業績情報や社会貢献に関する情報などの大学が保有するあらゆる情報を一手に集め、その分析結果を教育や研究、学生支援や経営などに利活用するための“的確な情報”を提供・管理する機関として位置づけられます。

以前は、総合情報基盤センターという名称でしたが、2010年度に掲げられた“経営する大学”という大学全体の機軸のもとに機関名も改められ、多面的な情報を掌握・分析・公開する「大学IR」(Institutional Research=機関調査)を行う機能を担っています。

岡山大学には、自主学習をはじめ、シラバスや履修・成績情報などを確認するために大学全体で1,000台を超える教育用パソコンが設置されており、学内LANでネットワークされたキャンパス内で学生は、入学時に提供・発行されたメールアドレスとID(通称:岡大ID)を使って学生生活に必要な情報を入手することができます。MOS試験は、同センターが管理・運用するパソコンとインターネット環境を利用して実施されていますが、その経緯をセンター長の稗

田教授は次のように説明します。

「以前から、MOS試験は大学と協力しながら岡山大学生協で受験の受付や試験を実施していました。当時は、外部からパソコンを借りて受験環境を設定するなどして試験を行っていたため、一度に受験できる学生の数に限りがありました。また、本校では2011年にパソコンを含めたシステム環境を更新しましたが、その際に学内でMOS試験を受験できる「試験会場登録」を行うと受験料の割引が適用されることを知りました。そこで、日常的に使って慣れているパソコンで多くの学生が受験でき、かつ学生の費用負担が軽減できるのであれば、学生のITスキルアップ支援につながると考え、大学内で受験できる体制づくりのための手続きを進めました。諸手続き完了後は当センター内のパソコンを使って受験を実施し、受験料の受付業務と試験実施のための運營業務については大学生協に委託して行っています」

新入生のパソコンスキルの向上を学生が主体的に運営する講座で支援

学内受験の試験実施日や告知については、同校のキャリア開発センターと情報統括センターとで情報共有しながら決めており、学生への受験サポートなどの運用面は生協が中心となって進めています。学内受験が実施される以前から進めてきた試験実施のための運用とはどのような内容なのでしょう？

そこには、岡山大学が理念として掲げる“知の継承”を裏打ちするような、学生自身による意欲的な取り組みの実態がありました。

岡山大学の生協では、パソコンを購入した新入生を対象とした『PC総合サポート講座』を2004年から実施しています。この講座は、学生の授業や学生生活でのパソコンの有効活用を慮って企画されたもので、パソコンに苦手意識の強い初心者向けの内容から、基礎をもとに大学生活ならではのパソコン活用を目指す内容までを網羅していて、毎年500～600人余り

身につけたスキルを客観的に証明 資格取得で成果を表面化

- 2007年度から加えられた『MOS対策講座』は、「資格を取得する」という明確な目標設定を、スキル習得のモチベーションの一助にすること
- 「エクセルやパワーポイントを使えるようになった」という能力を客観的に証明し、成果を目に見えるようにすること

の2点を意図して付加されました。そして、学内受験を開始した2012年度は、土日の2日間を利用して、6月(120テスト)、11月(21テスト)、12月(120以上のテスト数を実施予定)の年3回の実施予定が組まれました。そして6月と11月の試験では、大半の学生の初回合格という好結果が表れるなど、講座運営に熱心に取り組む学生スタッフのサポーターとしての技量の成果も表面化しています。

情報統括センターとしては、学内で受験できることの安心感と利便性を提供することでの貢献を続け、来年以降も2012年度と同様の日程での受験を予定するとともに、学生の要望に応じた臨時日時での試験実施も計画していきたいと言います。

「本年度より、多くの岡大生の学内受験が可能になりましたので、学部を問わず多くの学生に積極的に受けてもらえることを期待しています。文系の学生のなかには、高校時代に基本的なITスキルを習得する機会が少なかった学生もあり、大学内でもパソコンを十分に使える学生と使えない学生が混在しています。使えない学生の基本的なスキルはMOS試験の取得で担保できると思いますし、なかにはエクセルを使えるようになると具体的に何ができるようになるのかを説明するだけで共感する学生も多いですから。そして将来的には、客観的な資格を活用した基本的なITスキルの習得を教養教育のなかで位置づけていければと考えています」(稗田教授)

教育や研究の目標を効果的に達成するための戦略的な大学経営を目指し、公的機関としての社会的説明責任を果たすための自己点検評価を徹底して行うなど、各種データや評価軸を明瞭にした大学運営を指向・推進している岡山大学。

学生が学生のスキルアップを応援する“知の継承”を表面化するツールとして、MOS試験は有効に活用されているようです。

の新入生からの受講申込みがあるそうです(2012年度の申込み数は約700人)。2007年度からは、この講座の延長線上に『MOS対策講座』が位置づけられることになりましたが、2004年当初より、カリキュラムの立案から講義、相談に至るまでの講座のすべてを、現役の岡山大学のアルバイト生(以下、学生スタッフ)が実施運営しています。

“目標とされる先輩になる”を礎に 考え抜く意識と知力を継承

ゼロから講座の骨格を組み立て創りあげてきた初代アルバイト生のなかには、現在では大手企業のエンジニア職に就いている、あるいは高度なITスキルを基盤に起業しているといったOBも多いとのこと。こうした先駆者の取り組みをベースに、講座は今日でも学生が主体性を発揮するカタチが続いているそうです。

「初代先輩に限らず、“常に上を目指して、自分たちの力でいかに新入生に貢献できるか”を考え抜く意識や姿勢は、現在も先輩から後輩へと受け継がれています」と稗田教授は言います。

運営内容としては、ここ数年は講座のために毎年50～60人の学生スタッフが起用され講座実施にあたっています。1回の講座のために100枚ほどのスライドが準備され、その内容をもとに打合せを重ね、模擬講義を行い、フィードバックをもらって修正する。こうした流れのもと講座内容はブラッシュアップされていきます。

『PC総合サポート講座』(うち1～2回に『MOS対策講座』が付帯)の受講を希望する新入生は、年間17～18回の集合形式の講座を受けられ、受講生6～8人に1人の割合でアドバイザーとしての役割を担う上級生の学生スタッフが付きます。講座の内容は、「大学生に求められるワードでのレポート作成」「プレゼンをするためのパワーポイントの使い方」など、アプリケーションの機能や操作方法の説明に軸足を置くのではなく、大学生活に必要とされる“用途”を切り口に、そのための知識やスキルが身につく講義になるよう留意しているそうです。これは、上級生になって使えることの便利さを実感している先輩として、少しでもわかりやすく効果的に伝えるため工夫のひとつとして考えられています。

講座を手がける学生は、このような経験を通じて、受講する新入生はもとより、後輩のスタッフからも、“目標とされる先輩になること”を目指して取り組んでいます。

岡山大学 <http://www.okayama-u.ac.jp/>

所在地 岡山県北津島中三丁目1番1号

学生数 14,000人(学部生・大学院生を含む) (2012年5月時点)

11学部1コース7研究科を岡山市街地区の2カ所のキャンパス(津島、鹿田)に設置する日本有数の総合大学。高度な知の創成と的確な知の継承を理念に、「探究・創造する知性の育成」「豊かな教養と高度専門性の追求」「社会的責任を負う個の確立」「異文化理解に基づいた国際性の獲得」を教育目標としている。また、大学の保有する資源を戦略的に活用する「経営する大学」・研究・教育から管理運営に至るまでの全分野における「自己点検評価を行う大学」としての基本目標も掲げられている。

取材ご協力



岡山大学
情報統括センター
センター長
稗田 隆 教授